

ウマスゲ	<i>Carex idzuroei</i> Franch. et Sav.	絶滅危惧II類
		カヤツリグサ科
選定理由	生育地が限定されており、継続的な減少が予測されるため。	写真(清水英彦)
形態の特徴	基部の鞘は褐色で一部赤紫色。苞は上部無鞘、最下には1cm程度の鞘がある。頂小穂は雄性で柄は長く、雌小穂よりも抜き出る。雄鱗片は淡褐色。雌小穂は直立し、殆ど無柄だが、最下には明瞭な柄がある。雌鱗片は白色で中脈緑色、鋭頭、果胞の半分以下の長さ。果胞は10mm以上、無毛、有脈、嘴は長く、熟しても斜上、口部は鋭2歯。花期は4-6月。	
生態的特徴	河川の氾濫原や湿地に生育する多年草。	
分布状況	本州(関東以西)・四国・九州に分布し、岐阜県では県南西部に分布する。	
減少要因	開発による湿地の消失、植生遷移による湿地の樹林化、水辺環境の改修工事、増水による河道の変化。	
保全対策	開発行為からの湿地の保全、および植生遷移の抑制。	
特記事項		
参考文献	勝山輝男. 2005. 「ネイチャーガイド 日本のスゲ」. 文一総合出版, 東京. 星野卓二・正木智美・西本真理子. 2011. 「日本カヤツリグサ科植物図譜」. 平凡社, 東京.	

文責: 清水英彦